

群馬県がん患者団体連絡協議会

ニュースレター♪

2009年10月1日 第16号



～主な記事～

- ◇ 特集：群馬県がん患者ミーティング2009開催しました（1頁～3頁）
- ◇ 掲示板 「いろいろな記念日をご紹介します」その②
群馬がんアカデミーからお知らせです。

がん医療向上を目指して！！

群馬県がん患者ミーティング2009開催しました

平成21年10月3日（土）午後1時～ 群馬県健康づくり財団6階会議室において「群馬県がん患者ミーティング2009」～みんなで育てよう地域のがん医療～が開催されました。

この会はがん患者・家族、医療関係者、行政が協力して群馬県のがん医療を向上するためにそれぞれの交流や連携を図り、がんになっても安心して暮らせる地域づくりについて共に考えることを目的としました。

今大会は、がん連協参加団体、行政、医療関係者による企画委員会を立ち上げ、患者が聞きたいこと、知りたいこと、取り組むべきことや体験談などのリレートークを中心にプログラムを作成し、交流茶話会を実施、即席の群馬県混声合唱団を結成するなど楽しい催しも計画されました。

編集・発行／（財）群馬県健康づくり財団



◇特集:がん患者ミーティング

がん連協 本田会長からは、『群馬県がん患者団体連絡協議会が発足して2年半が過ぎました。この間、群馬県のがん患者を取り巻く環境は大きく変わりました。患者会同士が交流し合い、医療関係者や行政と協力しながら群馬県のがん医療を向上させたいという気運がますます高まっています…このイベントを通して、がん患者、家族、医療従事者、行政の皆さんが共に勇気や元気を分かち合えることを願っています。』とあいさつがあり、ミーティングがスタートしました。

初めての試み、「群馬混声合唱団」による合唱です。「てのひらを太陽に」、「365歩のマーチ」を元気よく歌いました。少々硬い雰囲気だった会場も徐々に気持ちが温まり、歌い終わった後は、全員に拍手を送りました。

リレートーク『群馬のがん対策 この一年の前進と、明日にむけた取り組み』では、群馬がん看護研究会の狩野太郎先生に司会・進行をお願いし、患者会のみなさんがそれぞれのテーマでトークをつなぎます。

狩野先生は「平成20年度群馬県がん患者大集会から1年」をテーマに採択された5つのアピールをひとつずつ検証しました。県内どこでも最良の医療が受けられる体制整備、がん相談支援センターの整備、患者サロン設立への支援、検診受診率上昇を目指して、喫煙防止と禁煙支援など、昨年患者会から行政や医療機関、患者へのメッセージを中心としたものです。

次にひまわりの会の根岸さんが「みんなで育てようがん相談支援センター」をテーマに、患者・家族と医療者を結ぶ拠点病院の相談支援センターについて、どのようにしたらお互いにとって充実したものとなるか提案していただきました。

群馬ホスピスケア研究会の吉本さんと訪問看護ステーションきらくな家の中里さんからは「家族の支援について」という内容で、患者・家族にとって退院した後どうしたらよいかわからないということが多い介護保険や訪問看護の制度の利用についてわかりやすく説明していただきました。

生菜の会の岡庭さんは「始めています”場”のネットワークづくり」というテーマでご自身の体験に基づく活発なネットワークづくりについて発表いただき、自らも講演会を主催したり、気功教室を通して患者の相談に応じるなど、その行動力に参加者も励まされました。

もっと聞いてみたい…知りたいと思った内容の多いリレートークでした。



ハロウィン支度の指揮者が登場。

群馬混声合唱団の歌声は元気いっぱい会場に響いていました。



◇特集:がん患者ミーティング



リレートークでは患者、家族、支援者の視点から群馬県のがん医療について多くの提言がありました。



休憩をはさんで交流茶話会が行われました。自然とグループ分けもでき、それぞれのテーブルに患者さん、医療関係者、学生、スタッフが入りました。

お茶を飲み、お菓子を食べながら和やかに楽しく交流をされていたようです。術後や療養中の不安を患者会会員や医療関係者に相談し、ゆっくり話をするうちに笑顔が見られるようになったという人。ご自身の手作りの帽子を披露して下さった人。胃の手術後の食事について教えて下さいという質問が出て、答えてくれる人。医療関係者同士の情報交換も活発にされていました。お互いにじっくり話をすることでがん医療に対する理解や信頼が深まり明日にむけた新たな一歩を踏み出すことができるのではないかと感じました。

名残おしかったのですが、「翼を下さい」を合唱して、再会を約束しました。

♪また会いましょう♪

[今大会はNPO法人がん患者団体支援機構(理事長:鳥越俊太郎氏)が11月8日に開催する第5回がん患者大集会の群馬県大会と位置づけました。群馬の取り組みを全国につなげていきます。]

今回の参加者は91名でした。がん連協のみなさん、ご協力いただきありがとうございました。



がん連協で実施するのは2度目の交流茶話会。会の目的である患者会同士、医療関係者との交流を行う充実した時間です。勇気と元気を分け合うことができたのではないのでしょうか。

掲示板



群馬がんアカデミーから
お知らせがあります。

・・・日本記念日協会のいろいろな記念日をご紹介します・・・その2

前回の続きです。今回は下半期のものをお送りします。

7月14日「内視鏡の日」

内視鏡は1950年に日本で、世界で初めて胃カメラによる胃内撮影に成功して以来、医学の各分野で高く評価され、診断、治療に役立てられてきた。その内視鏡医学のさらなる発展と普及を願い、財団法人「内視鏡医学研究振興財団」が制定した日。日付は7と14で「内視(ないし)」と読む語呂合わせから。

10月1日「乳がん検診の日」

毎年、乳がん早期発見強化月間の初日である10月1日に、東京タワーが乳がん早期啓発のシンボルカラーであるピンク色にライトアップされる。それを見た一人でも多くの女性が乳がんの検診に行くことを思い出し、早期発見から命が救われることを願い、乳がん患者などで構成する「あけぼの会」が制定した日。記念日登録の申請は支援企業のエスティローダーグループオブカンパニー株式会社。

10月20日「疼痛ゼロの日」

がん性疼痛をはじめ「痛み」とその治療に関するよりよい専門的、一般情報の提供を通じて医療の豊かな発展に寄与することで、患者が痛みから解放されることを目指して活動をするJPAP(Japan Partners Against Pain)ペイン情報センター事務局が制定した日。「がんの痛み」に関する社会的関心をさらに喚起するのが目的で、日付は10と20「トウ・ツウ・ゼロ」と読む語呂合わせから。市民向けの講演会や「痛みの相談室」などを開催。

☆ 群馬がんアカデミー からのお知らせです ☆

群馬ストーマ・胃ろう管理講習会 を 開催します。

日時:平成22年1月16日(土) 場所:前橋テルサ(前橋市千代田町2-5-1)

対象:ストーマ、胃ろうの患者さん、ご家族、ケア担当看護師

(定員になり次第受付終了、〆切は12月1日)

[講義予定]10:00~12:00 ストーマ、スキンケアから1講座

13:30~15:30 ペグ(胃ろう)、スキンケアから1講座

問い合わせ先:群馬大学医学部附属病院第一外科内 群馬がんアカデミー(担当:大野)

電話027-220-8224 FAX 027-220-8230

【群馬県がん患者団体連絡協議会 事務局】

〒371-0005 前橋市堀之下町16-1

(財)群馬県健康づくり財団 総務部 総務課

電話027-269-7811・FAX027-269-8928

E-mail soumu3@gunma-hf.jp



編集後記

猫が家政婦さんとしてお屋敷でご奉公するというマンガを読んでいます。ちょっぴりおせっかいな猫が繰り広げる身近な話に町内会の様子などを重ねています。ひとり暮らしの高齢者が多い昨今、大切なのはちょっとしたおせっかいなのかもしれないあと、日々感じています。もうすぐ秋のお祭りです。

編集担当 荒木美保